(一) 號一十九百六第 (水曜日) 明治四十四年五月卅一日 月曜及祭日之翌日休刊 (日刊) (明治四十一年十二月二十日第三種郵便物認可)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價 本紙一枚金三錢▲一ヶ月前金五十錢▲三ヶ月前金一圓四十錢▲六ヶ月前金二圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
廣告料 五號活字十七字詰一行金三十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休刊
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久誠一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話 大三番 振替口座京城 四五大番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番

移入米 關稅撤廢の急務 下
（波多野承五郎君談）

然るに我が邦が獨り朝鮮移入米に對してのみ、關稅を撤回せんか、關買地方の外國米を取扱ふ商人は、一大打擊なるべきを云ふ者あらん、然るに是等の外國米は、我が内地に於ては麥と同地位に取扱はれ、内地に於ける米作の豊凶に拘はらず、多少輸入するものなるを以て、從來に於ても到底内地米と競爭すると能はざりしなり、されば是等外國米を取扱ふ商人は、朝鮮米移入關稅撤回の結果、影響を蒙ると亦大なりと云ふべからず

新關稅法に依れば、外國米は百斤に付一圓なれば、約二割の關稅なり、隨ひて之を撤回せば、朝鮮總督府の關稅收入は、假りに我が内地移入額を七百萬圓とし、約百四十萬圓を減少するに過ぎず、而して百四十萬圓の收入の減少は却て地方に於て產業の一大發展を見るべきを以て、鐵道收入其他の增加を來し、彼是相償ふ所あるべし

元來朝鮮の鐵道は其の運賃をば遠距離低減の方法を用ひ居るが故に、其貨物運搬の如きは、之を輸送するに便なれば、其便なる程之を利用する者多くし隨ひて其收入の增加を來すべきや明かなり

朝鮮の記錄に存する貯水池は三千あり是れ水田灌漑の用に供せしものなるが今日に於ては全部荒廢に歸せり、今是等の貯水池を再興し、以て米作を奬勵せば、朝鮮の經濟界は全く其面目を一新するに至らん、之れ關稅の撤回を以て始めて之を善くし得べしと所する也

内地人か朝鮮を旅行し來り、朝鮮は山林荒廢せり、山林を治めざるべからずと爲す者尠からざれども、是れ鐵道附近だけを皆見したる皮相の見解なり、鐵道沿道を入ると五六里にして、雜木林を見るべし、決して内地人の云ふ如く山林は荒廢せず、或は將來山林の行政も必要ならんが、山林より治水よりも何よりも先づ關稅の撤回を爲すを目下の最大急務なりとす之を斷行せば、世に他の問題は自ら解決し了らん、世に他の奇策を要せんや。

●用達社漁游部 仁川

仁川仲町三丁目の用達社にては昨年來游漁部を設け希望者には漁舟漁具餌其他飲食物並に經驗に富める案内者を付し誘導せしに京龍仁間より一日の清遊を試みんと出懸けたる者尠からざりしが本年も最早季節に向ひたれば諸般の準備を整頓し一層便利を計ると

●肺結核の豫防（二）
贊化病院 河野作藏

▲肺結核の原因 顯微鏡にて數百倍に廓大して初めて漸く見ることの出來得る植物性有機體即細菌が身体内に入り込みて發育增殖して人体を喰ひ物とする爲めに病氣が起るので例之ば彼の樹木が寄生虫の爲めに立ちながら枯死すると同断で肺結核は結核菌と稱する一種の細菌によりて起るので此結核菌がなければ結核病はないのである（二）▲結核菌の性質は如何であるかと云ふに學者の調べによると一患者の一塊の痰に三億萬個あると云ふ故に一時間に一度痰を吐くとすれば一晝夜には七十二億萬の結核菌が出る譯である、又結核菌は虎列剌菌や腸窒扶斯菌の如く急速に發育せず培養しても三四週間を經過せざれば完全に發育せないのであるより見ても慢性に經過する病氣と云ふことは分るであろう又結核菌は三十度以上の溫度でなければ發育せない從て虎列拉病や腸窒扶斯病の如く一時に多數の患者を發生することはないのである結核菌は種々外界の影響に對する强度なる抵抗力を有して居る之を知るは豫防上の緊要件である

第一●乾燥に對する抵抗力 は如何であるかと云ふに痰の厚薄と光線の明暗によりて差異あるも大体に三ヶ月より一年時として一年半も死なずに居ることがある

第二●水中にある結核菌 は如何と云ふに痰が腐ると他の細菌が繁殖して早く死滅するものであるが然し一ヶ月か一ヶ月半は生きて居る場合によると七ヶ月も生きて居ると云ふ報告もある

第三●地中にある結核菌は矢張り二三ヶ月は生きているのである

第四●熱に對する抵抗力 は如何と云ふに二三分へ攝氏の九十度に熱すれば死滅するのである

第五●寒冷に對する抵抗力 は如何と云ふに攝氏の零下十度の雪中に於て六週間以上も生きて居ることがある如斯結核菌は抵抗力强大なるも

第六●日光の直射 に對しては比較的弱きもので痰の厚薄にもよるが平均五六時間で死するものであるこれは獨り結核菌のみではない凡て他の細菌も一定時日間には死するものである從て日光は自然の消毒藥で天の吾人に與へた賜である故に日光は吾人人生に必用缺くべからざるもので鬱暗き陰濕な家は衛生上甚だよろしくない

片袖の濡れてはかなし虎が雨

俗謡 嫉氣するのぢやなけれど獨りでさしたる傘なれば片袖ぬれぞな答がない

同寄故國活鷹國醫
[illegible]

外事一束

▲葡國● 葡萄牙國政府は國內秩序維持の宜しきを得て平穩也と言明。

▲英國● 帝國會議は殖民地新西蘭の母國政府に寄與方法決議案を否決したり。

▲石油● 英國海軍省は蘇格蘭各石油會社に石油燃料供給せしむ契約を締結。

▲海軍● 英國海軍の需要せる石油燃料千万ガロン之を前年に比し倍額なり。

▲統計● 英國の英國ウエールスて人口三千六百七萬五千二百六十九名なり。

▲倫敦● の現在人口は七百二十五萬二千九百六十三名前年に比し著く增加。

▲米國● 建造世界一戰艦ワイオシング號進水す噸數二萬六千巨砲十二を備。

▲困却● 土耳古國政府は去二十三日の露國の要求に就き大に困却し居れり。

▲辯明● 露國新記の要求に付同國は友誼的忠告にて威嚇的にあらずと辯ず。

▲獨逸● 諸新聞は露國の土耳古へ要求せし態度の非穩和なるを批難したり。

▲露國● 首相は極東視察中の陸相より秘密電報を受け其結果重大會議を開。



和萬朝所揭竹菊詩伯戲作韻
戲寄故國井蛙幽醫 加藤游藻

原韻
總解相思便解八。背彩紅粉證前因。半生無限消魂事。唯有離愁不是春。
昨解離情未解人。豈量新恨惹前因。六零六樂求何處。離愁閨愁紅粉塵。

召使れ初
第六十五回 黑法師



「什麼の僞りを云はうぞの、此處に德兵衛どのも居らせ、此方からも聞いて見やの」と、お力は悲しげに目を拭ふ

「德兵衛どの」と佐十郎は呼びかけ「お道お召し出しの事、本當でござるか」

「眞理でござります、日頃のお心掛が、德を生んだのでござります」と德兵衛は得意顏なり

「これ耻辱を知りやの、男と生れて女に出世の先を越さるゝ、これほどの耻辱ないでないか、そなた今年が幾歲と思ふぞさ」お力は詞に力を入れる

佐十郎は返答もなく平伏して、疊に食ひ付き泣き居たりき

「女のお蔭に出世の光さして、男のそなたに黑い暗被さる、これを何故と思やる喃、父上御丹精、そなたには劍道、學問、およそ武士の身に要める事、何一つ不足なく御躾けあらせられて居るでないか、その術を役にも立てないで、家を外に遊び歩く、酒に性根を奪はれながら、仕官の口を探し廻つても、誰が召し抱へてくれやるぞ、術はかりありても、心の眞に不足あつては、一代出世の光りがさゝぬ、お道は女、そなたに比べては三が一の躾もなけれど、幼少から心懸け、父上へ孝養の限りを盡す、その心が天に届いて、まだ二十に足らぬ身が、お表なられ御用人の格式、若年寄にお召し出しなされたでないか」とお力は涙を拭きながら、「私はお前の顏を見るごとに、体の肉を殺がれる樣ぢや、出世なぞは思ひも寄らぬ、そなた手から一合の米を貰いで貰はうとも思はぬ、せめては家へ歸らぬを孝行にしてたもらぬか」

「もし若旦那樣」と德兵衛は膝を寄せて「只今奧樣の仰せなされたことを、能くお聞きなされてはなりませぬ、人間は術よりも心の持ちようが惡くては、いかに武藝が優れても、什麼の用にも立ちませぬで、是れからはお身持をよくなされませ、お身持を善くなされませぬと、切角の武藝にも光りのさす時ござりませぬでな」

「當に德兵衛の云ふ通りぢや、いかに美しい花でも、泥の中に咲いたのを、床の間に生けることはならぬでの、武藝ばかり優れても、心の光りが添はいでは、お役に立つ時ないでのう」とお力はいかにもして我子を眞人間にして遣りたさが胸に滿ちて、噛んで哺めるやうに云ふ

されど佐十郎は無言なりき、ひたと次の間に平伏したるのみ、顏を擡げるにもあらず無言なりき

「捨て置け〳〵」と佐五右衛門は一言に云ひ切り「犬は畜生でも、主の云ふ事を聞き分けるが、獸れは人間でも親の詞を耳に入れぬ、犬より劣つた者が什麼になる、一杯の家に相續人が一人あれば事足る、二十石御知行を戴けば、正しい家名はそれで立つ、佐十郎なぞ有つても無益、無ければとて事は缺かぬ、今日限り勘當、今日改めて云ひ渡す、とつとと出て行け、再び當家敷居踏むこと相成らぬ」

「わし」と佐十郎は顏を擡げしが、續く詞はなく又平伏す。

「出て行け〳〵、犬にも劣る畜生が兄にあつては、お道出世の妨げになるまいものでもない、見るも穢れぢや」

「これは早や、甚ら御立腹と見えます、然し御勘當にも及ばぬ事、万事は私……この德兵衛にお任せなされて、今日の處は……」と執成顏に云ふを、佐五右衛門は耳にも入れず「切角ぢやがこればかりはならぬ、打ち捨てゝ置かせられ」





東京電報（三十日發）

▲英帝御誕辰日　六月三日は英國皇帝陛下御誕辰日に付き我天皇陛下より御祝電を發せられ同日午前十時式部次長伊藤博邦公を英國大使館に差遣せられ大使代理ダンボルト氏に聖旨を傳達せしめらるゝ由拜承す

▲重砲兵操典會議　教育總監部にて改正中の重砲兵操典は既に確定したるを以て來る八月一日より二週間各重砲兵聯隊長を召集し大島教育總監、豐島重砲兵監より訓示を爲し會議を開く由

▲濟生會寄附協議　昨二十九日午後二時半より桂首相邸にて濟生會世話人會合し寄附金の件に付き協議せり

▲國債償還額　廿五日より昨廿九日までの國債現金償還額は四千五百萬圓以上に達せり

▲伊國博の日本部　伊太利チュラン博覽會日本部九日より廿五日までの賣上高一萬七千圓なり

▲總監拓殖總裁訪問　山縣政務總監昨廿九日柴田拓殖總裁を訪問し長時間協議する所ありたり

▲陸軍擴張段落　我陸軍は日露戰役後増設したる師團及び其他各師團の騎砲兵を増加し兵舍建築、人員充實に努めつゝありしが此程完了し陸軍擴張も一段落を告げたり

▲準社會主義者取締　内務省にては準社會主義者取締の必要を認め警保局にては各府縣準社會主義者の名簿等を調製し其所在を明にすると共に其の行動を一々報告せしむる樣取計ひ居れりと

●條約改正經過

其後の條約改正交渉の成行きを聞くに瑞西國との條約は六月早々調印の運びとなるべく獨逸との交渉は進捗し居るも雙方の意見合致せざる點あるは事實なり然れども獨逸は七月二日議會閉會までには成立を見るべし一般の現狀に徴すれば條約消滅期前に成立せしむべし次に佛伊兩國との交渉は彼より提案を爲し目下研究中白耳義も彼より提案を爲し墺國其他は未だ開始せず

▲品川の埋立工事　鐵道院の品川海岸埋立は經費五十八万圓を二年九ヶ月間に竣成するの受負契約成立せり

▲宇治南淸警備　砲艦宇治は廣東の上流二百哩なる梧州に着し同方面の警備をなしつゝあり

●南鮮の麥作

京畿道黃海道の本年の麥作は只今の分にては上作[illegible]死せんとす去二十九日の降雨は幾分か農民に愁眉を開かしめたりと

水少なきため一般に不良なるが如し就[illegible]

●鮮人觀光團來[illegible]　京畿道延安白川の二郡より組織せられ[illegible]終へ本日海路歸途に就く

萩原氏の葬儀

▲萩原氏の葬儀　故通商局長萩原守一氏の葬儀は昨廿九日午前十時執行されたり當日勅使を同邸に差遣せられ幣帛白絹二疋を御下賜相成り會葬者千餘名盛葬を極めたり

雜報

●法令の統一難

▲某當局者の談▼

朝鮮に於ける現行法令は甚しく復雜を極め現に朝鮮人に關するものは舊韓國政府所定の法律を又內地人に律すべきものは元統監府令を襲用し居りて其間非常の不利不便を感ずるのみならず併韓後の現勢に適應せざるもの多し故に之が統一を計り新政の面目を更新するは最も急要の事柄たらずんばあらず然るに若し之が實行を爲さんと欲せば種々の故障續出し其困難實に名狀すべからざるものあり併韓後僅かに發布せる會社令の如き千三百萬の朝鮮人を主体とし虚心坦懷以て之を看取する時は必ずしも不當の法令なりと論定し去る能はず唯だ憲法治下に其權利を確保されつゝありし內地人をも同一に律せざるべからざるを以て遂に彼が如く非難囂々たるに到れるものなり其他如何なる法令を制定するも彼我の區別を立て能はざるに於ては此種の攻擊は到底免かる可からざる所以なりとす換言すれば主たる目的は多數の朝鮮人に在りと雖も之が爲めに少數の內外人を犠牲たらしむるの奇觀を生ずるを以て當局に於ても之が統一上一方ならざる苦心を費し居れり然れば茲に特令を設け日鮮民同視の原則を調和せんとするか是れ亦容易ならざる問題にして大に研究を積まざるべからず旁々其統一は或る時期の到達を見るまでは蓋し困難ならんと云へり

●三制令の裁可

豫て法制局へ廻付中なりし森林令及寺刹令の二制令は二十九日付漁業令は去る廿五日付を以て御裁可ありたる旨東京より其筋へ通知ありたる由なれば三制令とも近日發布せらるゝ筈なるが寺刹令は其內容五六個條にて朝鮮在來の寺院約五百個を財團法人となし漁業令は稅務に關係あるを以て九月頃より實施せらるべしと

●新設公立普通學校

總督府は本年度より各道に普通學校新設又は增設すべしとは既報の如くなるが各道令後の教育上の施設として先以て既報の公立普通學校を益擴張し私立學校に改善整理を加へ比較的優良なるものを公立普通學校の組織に改め總督の認可を得て開校する事に一致し今日まで各道より普通學校新設の認可を請ひ來れるもの百數十校に達したり而して該申請に對し總督府より認可されたるもの咸鏡南北道を除き十一道にして其の數百〇六校なるが之れを各道別に記せば左の如し

△認可されたる各道公立普通學校數

京畿道十校、忠淸北道六校、忠淸南道十一校、全羅北道九校、全羅南道未定、慶尙北道十八校、慶尙南道七校、黃海道九校、平安南道十五校、平安北道十三校、江原道八校

●各道授產計劃（四）

……慶尙南道……

▲授產者總戶數　同道管內に於ける授產者總戶數は九千百四十四戶の多數を算す而して家庭の關係と修了後要する保護監督とに顧み各府郡をして適宜經營せしむるを便利なりと認め其管理を各府郡に命せり又其全部を六箇年間に於て職せしむべく方針を定め左の如く事業を種別せり

▲蠶業の傳習獎勵　太邱其他七郡に養蠶傳習所を設け一面より一名乃至二名の傳習生を入所せしめ六箇月間敎習す而して終了後は共同飼育所の敎師と爲すか或は自營の途を講ぜしむ一方道立養蠶講習所を設け各府郡より一名宛合計四十一名を收容し一箇年間講習して技術者を養成し修業後巡回敎師に採用す更に養蠶獎勵の目的を以て桑苗一戶一段歩宛戶數千四百八十一戶に九十九萬七百本を配與し又國有未墾地若くは荒蕪地を利用し四十四年度に百四十八町歩の桑園を新設せしめ其補助として一戶五圓宛を給す其他蠶坐二萬九千六百二十枚蠶棚千四百八十一組を交付し或は蠶室の修設備の爲め一戶一圓宛を給す前記養蠶講習所卒業生は各郡の技術者に採用し內地人巡回敎師六名を以て之が監督に當らしむ

▲機業傳習所　大邱外十八箇處に機業傳習所を設け木綿麻絹紬糸を用ゐて組織する業を傳習す事數師は內地人又は工業傳習所卒業生を以て之に充て傳習生は生活狀態の最も困難なるものより順次撰定し一郡八名乃至二十五名合計二百五十七名を年々收容す傳習期間は九月より二月迄六箇月間にして修了後は機臺一個を給與し自營の途に就かしめ巡回敎師をして實地指導せしむ又共同販賣の方法により原料の共同買入を行ふ而して本年度は金融組合に交渉して資金の貸付を得其生產品を以て償却する筈なり

▲製糸傳習所　慶州外七箇處に製糸傳習所を設け日本紙又は滿國向輸出紙の抄製法を敎授す敎師は內地人若くは工業傳習所卒業生より採用し其生徒は各郡より五名乃至十一名合計六十八名但四十四度は九十四名を撰拔し六箇月間の傳習を了へたる上器具を與へて自營せしむ又楮苗二百本を給し自營の當初は巡回敎師をして實地指導せしむ

▲製莚傳習所　高靈及慶山に製莚傳習所を設け花莚及箕表の製作を敎習す而して先づ三十五名の傳習生を收容し修了者に對して製莚機一臺及原料栽培の爲め要する土地購入費として五圓宛を給與す

●定例長官會議

三十日午前九時より總督府に於て定例長官會議を開き寺內總督を始め倉富、石塚、荒井、宇佐美、大屋、池田、小松の各長官明石警務總長、俵副總裁列席政務の打合せを爲し午前十一時散會したり

●第二商工調査報告

釜山木山浦方面の商工調査報告書編纂終了したる事は既報の如くなるが更に第二回報告書として木浦を中心としたる全羅南道方面及大邱を中心としたる慶尙北道方面の分とも略調査終了したりと

●鑛務課長の新任

農商工部鑛務課は工藤商工局長の兼任なりしも今回局長轉任のため農務課勤務の大塚書記官新らたに鑛務課長に任せられたり

●土地調査員養成

土地調査局にては今回事務員及技術員養成のため總督府令第六十四號を以て養成所規定を發布したるが事務員の修業期間は四月乃至六月技術員は八月乃至一年とし主として朝鮮人より採用する筈なり

●鐵道協會員下仁

既報鐵道協會員二百五十七名の一行は三十日午後二時仁川驛着驛員民團吏員商會議員等同驛に出迎へ市中を案內巡視し各國公園裏の丘上に於て茶菓を饗し一同午後五時四十分發臨時列車にて歸京せり

●協會員の出發

鐵道協會正會員百五十餘名の一行は三十一日午前七時當地發特別車にて平壤に向け出發すべし

●鐵道協會員視察程

三十一日午前七時當地出發の筈なる鐵道協會員の西鮮視察日程を記せば左の如し

三十一日　午前七時京城出發午後一時三十分平壤着同地の各名所を視察の上一泊

六月一日　甲乙二組に別れ午前八時甲組は出發同八時三十五分乙組平壤より鎭南浦到着孰れも鎭南浦築港事務所集合築港狀況を視察、三和花園到り同所に於て官民有志より茶菓の饗應あり同日午前十一時三十分鎭南浦發同午後七時新義州着甲乙二組に別れ甲組は直ちに安東縣に渡江一泊乙組は新義州一泊

二日　架橋工事視察の上安東縣鎭江山に到り小憩の上一行は茲に解散自由行動

釜山より（廿五日發）

十一時三十四分釜山驛に下車す民團會議と敎會朝鮮部長に來轉せる木原外七氏は新任牧師藤田潔氏同道日本內外人の[illegible]於ける官民合同の救濟會に[illegible]

●愛國婦人會賜金

愛國婦人會朝鮮本部總會に際し李王妃殿下より特に金一千圓下賜ありたり

●寺內夫人愛婦會寄贈金　寺內總督夫人より金五百圓寄贈せられたり因みに總督にも總會餘興少女手踊等を喜ばれ即日百圓を寄贈せられたり

●愛國婦人會員の觀覽　愛國婦人會今回の總會に際し參列者は總會當日閉會後秘苑仁政殿を拜觀したるが總會翌日も亦仁政殿秘苑一圓動植物園、博物館を拜觀したる者五百餘名にして廿九日景福宮を拜觀したる者は二百餘名に上りたりと

清州より（二十八日　通信員）

當地は客冬以來著しく發展し豫て新設中の淸州より鳥致院に至る新道路も畢り當地西門外より邑內に通ずる道路を除き他は既に竣成せしを以て鳥致院に於ては直ちに乘客用馬車を拵らへ當地西門外より南方即ち市場に迂曲し每日一回二臺宛往復すること、なれり今二十八日は我皇后陛下御誕辰の日にして殊に日曜日に相當し朝來一點の曇りなく最とも心地よき快晴の日此慶でたき地久節を迎へ誠意御佳節を祝し奉ると共に道廳にては管內各部書記の集會を機と同日午後一時より構內廣場に於て擊劍會を催ふせり參會者は澁谷事務官、櫻井警務部長、井原副官其他官民多數にして當日の試合は道廳職員の初め監獄、警察、憲兵隊其の他の職員にして監獄及び警察職員の如きは流石に職務柄とは云へ何れも其技に長じる人多し最初に於ける第一回試合の內文義在勤者たる萩原部書記對憲兵隊小澤某との試合に至つては毫も武術の意を解せざる人の試合　等しく其陋劣なる態度は人皆冷笑せざるなし現に○○書記の如きは已が暴力に任かせ相手たる小澤某をして多數の纎弱き兒童が觀覽しつゝある難所に押付け無法にも所嫌はず亂打せしため觀覽中の兒童に迄打撲の余波を與へながら其勝敗の決せし後に至りても右兒童に何等の詫だにせず只其なる面を傍觀するに至つては只呆るゝの外なし殊に○○○如きは己○不宰たとひ勿論常に風規の嚴肅を口唱みながら斯る嚴肅なる會場に臨んで如何に和服とは云へ只單衣を着するの外其袴だに穿用せざりしは最も人を蔑視するの甚だしき者と云ふべし打撲の禍を蒙りし兒童は幸に何等の傷なきは不幸中の幸と云ふべく斯して其後二本及び三本拔等數多の試合あり此日第一回より引續き勝利を博し其月桂冠を頂きしは淸州分監在勤看守廣澤一郎氏にして氏は漸く青年なるも能く其技に長じ常に公務の餘暇を利用し當地各財務部長其他官民有志の師範を兼ね專らこれが鍛練に怠りなしと尙當日は擊劍會終了の後直ちにテニスの競技に移り數番の競技ありて夕陽西山に春掲く頃散會せり

▲人さまゞ▼（四十三）

中大路正雄君

君の實家は土佐であるが、粉糠三合持たぬ爲め、公卿十の養子に貰はれた程の果報もの、又其令兄佛國法律博士[illegible]君も、矢つ張り三合ばかりの粉糠が無いので、田中光顯伯の養子と相成り、現に小林孝子をれ母さんと呼むで居る、君は三十二年帝大英法出身の法學士である、木浦理事官から北韓方面の京畿道內務部長に轉じ、渡り渡つて今回內務部長と相成り申候といふ譯だ、至つて淡白で役人氣質の杓子定規が大嫌い、だもんだから事務を處するにもテキパキして一瀉千里に解決する、ソレで其豁氣を奔らせ時に上級官廳に命令的照會杯を發する處寧ろ偉らかざるを得ない。

●京城の重要物產

京城商業會議所調査に依る昨四十三年中京城に於ける重要物產及價格を記せば左の如し

種別	數量	金額	所當
酒造	一、七五〇石	五一、四五〇圓	六
牛肉	六、五三三、七七六斤	九三五、二五三圓	三
牛皮	三、二九四枚	一六六、三五二圓	三
味噌製造	一四四、〇〇〇貫	二五、九二〇圓	六
醬油製造	六四八石	一八、一四四圓	四
疊の床	三、二四〇枚	一四、六八八圓	八
洗濯石鹸	二、八四〇箱	一四、三六〇圓	二

總生產價格百二十三萬三千百三十七圓なりと

●澤田書記官の新任

山形縣事務官澤田豐丈氏は今回總督府書記官に新任されたるが在勤部局は着任の上ならでは決定せずと

●生田書記官の轉勤

農商工部秘書課在勤の生田書記官は別項大塚書記官の鑛務課長に轉じたるを以て其の後任として農務課勤務を命ぜられたり

●平安道の度量衡法實施

平安南北道にては七月一日より度量衡法を實施するにつき之れが説明のため六月一日より深川囑託は平北へ約七十日梅田技手は平南へ約六十日の豫定にて出張巡回すべしと云ふ

●新貨の及ばぬ地方

貨幣整理に依りて今や新貨は全道に普及したりと雖も唯全羅南道慶尙南北道境即ち雲峰咸陽地方及慶尙北道の安東以北に於ては今猶は葉錢の流通盛にして新貨は殆んど形を見せずと云ふ

●行政區畫の調査

朝鮮全道に於ける行政區劃の調査は昨年以來警務總監部にて調査中の所本年一月全部終了したる由にて從來の調査に比すれば最も精密なるものなりと云ふ今之れを表示すれば左の如し

道別	府	郡	面數	戶數	人口 鮮人	人口 內地人
京畿道	二	三六	四八三	三〇五、〇七六	一、三二六、九四三	四五、八〇六
忠淸北道	〇	一八	一九九	一三二、一〇九	五三〇、一五五	一、八九五
忠淸南道	〇	三七	三九四	一九三、七一八	八七一、八〇三	六、八六七
全羅北道	一	二七	三八〇	二〇五、六二三	九三三、七六八	六、七六六
全羅南道	一	二六	四四九	三一二、五〇四	一、四八七、〇八九	九、〇〇四
慶尙北道	一	四〇	五二〇	三五一、二八九	一、六二五、七五一	九、七六〇
慶尙南道	二	二七	四九八	二九九、〇二六	一、三四二、一七八	三四、三〇四
江原道	〇	二五	二三七	一五九、七七一	七七〇、九七四	一、五三三
咸鏡北道	一	一〇	一三一	七八、二六五	四三三、二二九	七、六五七
咸鏡南道	一	一三	一八九	一六六、四九二	八四一、〇五九	七、一七三
平安北道	一	二〇	二五八	二〇三、〇四五	九三三、九五三	五、八五九
平安南道	二	一七	三〇一	一八五、九六三	八七〇、三三六	一二、三三五
黃海道	〇	一九	三五五	二一八、六四七	九四五、六七五	四、七七三
合計	一二	三一七	四三五五	二、八一二、五一七	一三、四二〇、三九八	一五三、八〇三

公人私人

▲藤根吉春（臺灣總督府技師）　二十九日入京浦尾へ

▲宮本政藏（大邱模範場技師）　同上

▲杉井說造（東海商業銀行取締）　同巴城館へ

▲掛札季藏（總督府技師）　廿九日釜山へ

▲命谷充（咸南內務部長）　同上

▲水谷千萬吉（海軍機關大佐）　平壤へ

▲京城手形交換高▼

五月	金高	枚數
三十日	二七四八七四、二五〇	七一四

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　廿九日の分
乘車客　八一六　下車客　七九二
乘車賃金　一、九一一、七四

▲南大門驛荷扱高　廿九日の分
發送　五九噸　到着　四七五噸
貨物賃金　九八九、一六

▲龍山驛乘降客　廿九日の分
乘車客　二三二　下車客　一九九
乘車賃金　二五二、七一

▲龍山驛荷扱高　廿九日の分
發送　三噸　到着　三七七噸
貨物賃金　一九、六一

▲仁川港の出入船舶▼
秀吉丸　三十一日大阪へ向出港

內地巡禮日記（三）

水浪生

前回に記せし如く余は五月三日寺內總督を其官邸に訪問した、寺內總督の訪問、コレが一回東京における余の用事の全部だ、之を了ふからにはモーヤ余に於て取とめた用事はないのだ、イザや是より音に聞きし帝國座に行き、眼の保養を爲さんと老母と共に同日午後五時頃劇場に入つた、劇場の構內外の裝飾、目を驚かす許りと云ひ、いかなる形容詞に使へぬ、何なれば名[illegible]る帝國劇場なれ、實は外國のソレに比すれば第三流を出でざる代物に過ぎぬからである。一体我邦人はドウ云ふものか帝國なる冠詞を濫用する、彼の帝國ホテルでもソウだ、外國にして見れば田舍の停車場前にありソウな第五流の旅人宿に帝國ホテルとはナンの事だ、併し今度はコンナ屁理屈を搜しに來たのではない何しろ拂つた錢だけの保養をせねばならぬ、と考へつゝミンストリルの近所の所謂一等席へ着いた。演題はフランス物のケミリヤ之か帝國語に譯していい椿姫、役者は高田、伊井、河合其他馬の脚幾人、相變らずの本郷座式で演じた、見物は喝采した、而して思ふに此ケミリヤ劇に喝采せる男女千五百の見物は何に我國民倫理の[illegible]に裏書をしたのだ、アー斯の如きは國民すべきか否か、倫理の問題は決して忽諸に附すべからずである。序に記すが運動場では五六の舊友に逢つた、ソウし特に丹紐育の日余が觀劇の友なりし茶業組合の西村庄太郎君に八年振りで出逢つて共に帝劇の批評をヤツた。倉富司法部長官の令息は過日南大門から余と同車されたのであつた、ソウして今夜は余の友人と共に觀劇に來て居られた。老母と共に旅舍に歸ると、何人にも余の着京を通せぬのに訪問者の名刺が十數葉机上に置いてあつた、サテは明日からは客訪やら無沙汰廻りやらをせねばならぬ、人間は如何なる場合に於ても絶体に遊ぶ時間だけを有することは出來ぬものと見ゑる。

▲茶袋▼

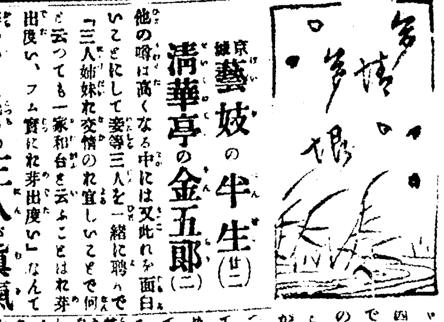
或る官人某特派通信員を拉ねて曰く、元來君の新聞は特に溫健だといふので中外に聲價を博して居るのだ、然るに君の行り方は兎角早まり過ぎて困る、見玉へ倫敦タイムスを、四十幾日も遲くれた記事を載せて居るが夫れでも彼の通り無冠の帝王じやないか▲巧みに持ち上げて注告したのは能かつたが、生憎其引證したタイムスは一箇月も遲れて見て居るからであつたので、某から散々に遣り込められギヤフンと參つた▲總督府中でも割合に物が分かるといふ官人の新聞觀ですら件の通りの始末だから、若し一箇年も遲れた記事を載せて居つたら所謂其溫健に兔を掛けて喜ぶかも知れぬ▲總督[illegible]府內地から歸つて來て盛んに氣焰を吐いて曰く、內地人は朝鮮を殖民地々々と稱し居るが殖民地といふと朝鮮人は土人と言はねばならぬ、而ふすると其土人は遂に厄介視されて內地人のみを移殖する如うに聽ね甚だ心苦しいトサ。

[illegible]の豪商[illegible]其三郎外和田利[illegible]野和一等の人も頗に設計中[illegible]

▲大阪期米[illegible]

▲仁川米豆取引

●三十日館場　五月寄十圓九十錢▲止[illegible]



京城 藝妓の半生(廿二)
清華亭の金五郎(二)

他の噂は高くなる中には又此れを面白いことにして妾等三人を一緒に聘んで何「三人姉妹れ交情のれ宜しいことで何と云つても一家和台と云ふことはれ芽出度い、フム實にれ芽出度い」なんて弄かつては此方の三人が眞氣に成つて怪しい言譯を爲るのを興がると云ふ甚だ以て不心得の方が少ないこつちやない、サア左様成つて來ると同一座敷を勸めて居ても口には夫れと云はないが腹では敵同士の睨み合ひ意地にも自分の專有に爲ずには置かぬと云ふ意氣込みだからツイした事にも角芽立つ、妾なぞ佐々木さんから拵へて貰つたものは云ふに及はず衣類持物はスッカリ七ツ屋に葬つて夫れでも足らず手の届く丈け借金して一切萬事姉藝妓駒千代の差がれ通り必死になつて競爭した結果遂に石井から決して浮氣は爲ないと一札を入れる事となりましたが何にしろ妾は未だ漸うヤット十七ですもの譯も判らず承知したのが姐さんが承知しない「太郎ちやんは甘いねは其様證文なんぞ百本有つても反古同様何の役に立つものかよ、考へて御覽、彼れ程無理をしてヤット自分の客と決つたものを『決して浮氣を爲ません』位の證文でれ放すてお事があるかよ、何うでも一旦は落籍るして丸部に直して挨拶は回る位の了見が無く、何うするんだよ、自烈度のう、此の證文は妾にれ借し石井さんに談判して上げるから」と云はれて見れば成程左様だ「何分ともに宜しく」と全權を委任に及ぶと氣早の姐さん石井を呼び出し妾と三人膝を突き附けて大手町の田毎庵の奥座敷に談判開始の幕を開けたの、其の時の姐さんの言ひ條は『貴郎も御存じの通り貴郎の事に就いて此の妓(駒太郎)の費つた額は生柔しい金錢ではない、夫れやア何にも誰れにも頼まれた事でもないから云はゞ此の妓の醉狂?とも云へませうが原因はと云へば貴郎の浮氣から起つた事であつて見れば貴郎だつて此の妓の顏の立つ様に爲てツカアさるのが當然だと思ひます、夫れだの、ナンボ此の妓が何も知らんかて此様反古紙一枚でれ挪ひは少々貴郎でもない餘り不人情てねものだと思はれます、例令又々勤めさするにしても一旦は落籍して行つてツカアさい」と云ふの、夫れに對する石井の答へは『俺だつて駒太郎の苦勞した事も知つて居るし又自由になる身なら落籍して夫婦に成りてぬのは山々だが何分知ての通り兄貴の厄介者なんだから時節の來るのを待つて呉れ、決して顏は潰さないから」と瓢簞鯰、スルト姐さんは期うう鼻をフンと鳴らして『時期を待つてね』と妾の方へ向いて『太郎ちやん待つかね、待つんだね』と又石井の方へ向ひて『ダガ大抵何日頃までなんでしよう』と駄目を押す『兄貴に相談しての上でなければ』と逃げる、と開き直つた駒千代姐さん『若し兄さんの御承諾が無い時は』と突つ込む『承諾しない時は又方法があるサ』と甚だ曖昧なの、夫れをグッと癪に支へた姐さんは妾の方へ膝を向けて『太郎ちやん斷れてれ終ひ、グヅグヅしてると踏だつて蹴かたつよ、石井さんから見棄てられない今の間に此方から御免蒙んなさいよ、意地で競爭はしたけれど決して惚れては居なかつた、と云ふ證據に』云はれると其の通り『斷れますよ見込がないから斷れて終へばアカの他人ですから其の證文も返して頂戴……姐さん妾モウ用がないから歸つてよ』、斷然行つて立ち上る妾を見上げた姐さんの眼は涙に露んで居た如でした、左様した事で石井とは斷れた翌る三十八年の一月即ち十八歳の春此家から今の名で出ました、貴郎の仰云るれ醫者様とかも此の時分の事、四十年の六月龍山へ來て請負師の石田憲吉と云に落籍され世話女房に早替つて廣島小網町の其の人の家に伴れられ四十二年十二月まで暮して居たが都合あつて別れ四十三年三月又候舞ひ戻つた歸り新參何分宜しく願ひます、と云ふ彼れには南大門通り邊に僞い御貸負があるのである。次は

井門本店權助

吉辰丸の船員不評判
▽船客皆憤慨す

仁川協同組の扱に係る瀛船吉辰丸は嚮に唐津仁川間の定期航船たる香椎丸に替り現に定期航海して旅客及貨物の輸送に從事中なるが船長久住武入外船員數名とも總て船客に對し不親切不條理なる行爲あることは屢々同船にて來りし者の口より耳にせし處なるが去廿八日仁川入港の際の如き橘高料市なる者唐津より搭乘の際支那鞄一個を托し置き仁川上陸の際受取らんとせしに船員等は如何なる考へなりしか右の荷物を本船より陸揚せざりしより橘高は其筋の注意を求めし處稍々暫らくにして該鞄を朝鮮人艀船にて棧橋まで積み來りしとは云へ事務員は出張せざるより橘高は其の不都合を責めたる處船長等皆な厄介物視したるが如き答辯をなし敢て顧さりしと云ふ尚船客水口某の曰く吉辰丸船員の不都合は實に言語に絕す食物の粗惡なるは云ふに及はず船客をして如何に其の取扱振りが精神的惡感情を抱かしむるかは到底想像の外にて一度同船にて航せし者は不滿を抱かざる者なかるべしと云ふ

●鑛山師の第二回公判

鑛山師福田宗次郎ノ詐欺取財第二回公判は京城控訴院大法廷に於て開廷せられ橋裁判長寺田檢事陪席判事型の如く着席被害者の私訴代理人大久保木尾小川の三辯護士被告辯護人代議士小川兵吉氏を筆頭に泥川正直秀島浩の三氏出頭せり證人として被害者麻生を喚問せられ證人の證言逐一被告人の不益利に屬したり被告辯護人は變る〲重要なる點を證人に突込むに證人は法律上の理屈は要領を得ざる爲め曖昧なる不得要領の中立を爲すにぞ裁判長より綿密に解釋して答辯せしむ證言の中には陪席判事を初めとし傍聽人を苦笑せしむる事ありたり證人調終りて私訴代理人より證人喚問申請ありしに付檢事の意見ありて一應閉廷したり

●水晶泥棒　北部校洞二十六統三戶崔錫圭は明治町佐野水晶店に雇れ中水晶數十個を窃取したること北部署に探知され取調中

●れ花見中を御用　龍山孔德里四十一統三戶無職張文顯(二七)同兄弟井契統戶不詳無職朴享培同契六十六統十戶穀類商崔星洛(三三)同瀧項契六十四統三戶穀類商李容齋(二五)の四人は廿九日崔星洛方にてれ花最中龍山署巡査に踏み込まれしが朴享培は逃走他は悉く捕縛引致さる

●喧嘩　西部新坂內四十四統三戶金在明(二二)は三十日午前一時三十分頃南部梅井洞沖嘉嶺先達方に於て飲酒の結果同永極(二三)なるものと喧嘩を初め毆打負傷せしめたるより南部署に引致され取調中

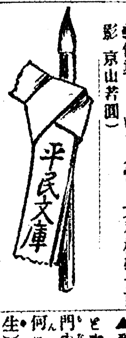


本日は河岸を仁川に替へて其のれ噂の聞き書き御披露仕るべく候但し眞の噂の聞き書、候間何分其のれ心で御覽願上候▲仁川一番の枯で居た鱗の笑子格別大して腹も溜る様なものを頂戴した様子も見へぬに先月頃よりムクムクと膨れ出し臍の先きが着物で探れる如になつたので秋田の黑殿に對して落籍方請求中に御座候▲一富士及び鱗にては近く新形美人輸入の計畫ある由着仁の上全盛を極めるか何うかは一切判り申さず候▲淺岡の君枝六月早々年期が滿けるから芽出度足を洗つて嬉しい人と一緒になる筈なりしが其の客スッカリ外れつちまひ本年中は兎ても身動きもなるまじとの事なるが別段氣の毒とも思ひ申さず候▲同家の桝子は弗旦の一人何某が定期に手を出しツンと云ふ程に敗しアのでれ氣の毒なを繰り返し自分の收入の減つたのを苦吟致し居候▲檢番藝妓の太郎は猶島金樂樓に落ち延びた、由哀れと云へば云へ實は身の程知らぬ無分別の報ゐに候、斯う云ふ風に笑つて遣つて下され度候、ツッフッフヘッヘッへと▲六月十、十一兩日の築港祝賀會に出動すべき藝妓連の揃衣四五日前着致し候揃には浪の摸樣入り▲築港はやしの稽古も廿八日を以て相濟み申候由に候當日が待ち遠しく候(仁川〇子)

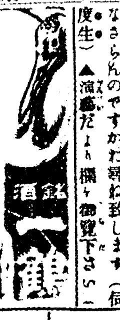
女振り(十六)
宮舘貞一君夫人　宮舘貞子

宮舘貞一君と丈けでは一寸判り惡いが仁川警察署長と云へば御馴染柄聞へたものである、女振子が仁川に遣はしたものゝ報告に依ると貞子さんは明治十七年のれ生れで正に二十八歳でれ子供衆はれ四人内男二、女二と云ふ割合である、而して長は秀子さんと申して三十一年の出生、次が男のれ見さんで三十三年の出生名は宏、次も同じく男で三十九年の出生名は統、れ次が嬢さんで節子さんと申して四十二年の出生だ、どうも、疑は即ち此所に生ずる、明治十七年生れの夫人が三十一年にれ子さんを產さるゝと云ふのはチト早過ぎる夫れなら只の七年の御出生とすると初產が二十五歳の時となる、デはチト遲ひ、考へて分明る問題でないからモ一度精探させ様とも思つたが年齡なぞは女振りに左して必要がないから止めにした、至極御柔和な質で、最もれ得意なのが琴、西洋料理で目下生花及びれ茶のれ稽古中である、御器用なので日に増し御上達である、御生國は青森縣、文は承知する。

●浪花館　浪花節京山若圓一座三十一日の語り物は辨慶勸進帳安宅の關(日本軒雲龍)人情拔刀梅山大佐(東洋軒三笠)血氣傳義俠鏡、ぬす人情、大和櫻義士面影(京山若圓)



▲下の如き事を言ひ遣はされた人がある▲小生の主人は獨身の處此程且非にいゝ妻君の御選定に付小生東奔西走探査候へ共未だ良妻とも可申者無之に付本欄を借り御尋ね候次第良緣に嫁せんと欲するものは身分の如何を不問宿所姓名を本欄にれ知らせを請ふ但し一十五才以下にして苦樂を共にし一生貞操を固守する者に限る▲と云ふのだが求婚の條件としては缺けだらけだ▲夫れは自身の年齡、職業、收入等最必要事を記入せず先方の宿所姓名を本欄にて知らせよと云ふが如き類だ▲云ふ迄もなく結婚の主要條件は年齡である次が職業收入即ち身分及び生活程度である夫れから次が容貌問題だが之れは今日では所謂棚の餅の皮に過ぎぬか往々之れを主要條件とする娘さんもあるからツも又必要だ▲夫れから良緣に嫁がんものは宿所姓名を本欄にて知らせよは殆んど亂暴に近い自ら名乘りもせぬ求婚者に對して宿所姓名を併かも平民文庫などに發表する婦人があるものか▲だから僕は之れを誠意なき希望として卻け更らに自巳の氏名を明記せざる此の種の無責任なる投書は以後一切掲載せぬ(保)▲京城取引所登記人にれ尋ね申上候其物の成行は如何なりましたか(本町生)▲代つてれ答へする不認可と云ふ事に昨年中決定!新聞紙も又當時之れを報道致し居候(保)▲此れから京城には丸髷婦人が多くなるだらうテ(痴生)▲ですかね(十僧)▲松園の娘さんは奇麗ですよ(狆コロ)▲ですかね(小僧)▲高峯さんは琵琶彈奏會を公開なさらんのですかれ尋ね致します(伺度生)▲演藝だより欄を御覽下さい(係)▲藝妓の半生史に何故菊屋の文之助を紹介されんのですか理由承りたし(特熊生)▲喧嘩腰での御訊問は恐れ入りますれ目なかく御覽下さい(其係)▲愈々南大門外の道路取り擴げが事實となりましたとの事ですが序でに西大門内のアノ瓢簞の腹の樣な縊れた處も何んとかして下されませぬかしら(一希望生)▲當地料理店の内で庭の佳いのが萬千閣奇麗な妓が白水眺めの佳いのが花月美味い物を食はせるのがはついねだらう(物知面生)



りん病患者に警告す

サンタールが痳病に特効ある事は今や天下の認識する處となれり而かも本劑は日本より尤大誇張の廣告を爲さず獨り其卓抜なる藥効に倚頼して一般の信用を博するに至れるは弊店の誇とする處なり
抑も痳病の如き疾患は其藥效の見易きことと恰も外科醫手術の功拙と巧しく患者自身に於て直に輕快を自覺するを否とに由り容易に判斷することを得るを以て何人と雖も之を欺くに由なし而して市上痳病の特效藥と稱するもの枚擧に遑あらずと雖も獨りサンタールが其名聲を擅にする所以は其優越なる藥効が幾多淋病藥中一頭地を抜くものあるが爲めに外ならず
●本品獨特の長所
本品は内服して一種の化學的變化を起し最良の防腐殺菌液となり尿と共に排泄せられ自然の洗滌法となるを以て淋病菌を其根底より驅逐するにはサンタールの外又良藥なし
藥價 急性慢性痳疾用特製分三週分三圓五十錢、輕症用二週分一圓八十錢、一週分一圓二十五錢、一週分六十五錢、小包郵税

本家 京都市二條通木屋町 振替大阪三三四番 藥學得業士 濱田北辰堂藥局
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九〇四番 振替口座京城一〇六十六番

●つぎ手、つぎ足 最新式實用 堅牢無比



●せきずい治す器械 患者常用
京都水尾町二條南●義手足專門工師 創業廿六年●三府本部小柳製作所

瓦斯コークス販賣
京城黄金町高等演藝館隣
酒井組 電話一一四九番

小兒かんむしの良藥
一效○ひかん○むしけ○ちゝあましり
○ひきつけ○ねあせ○ちばなれ
○かべつちをかむ○かほてあしなどに大効あり



價五錢●十錢●二十錢●五十錢
本舗 大阪堂島蜆橋 高橋盛大堂藥局
全國到る所の藥店に販賣す

代理店 京城本町五丁目 木下大盛堂
同 南大通三丁目 新井藥房

◎ 特價發賣 ◎

朝鮮國寶大觀

製本體裁	菊倍版縦一尺横七寸五分厚六分大和綴美裝
印刷體裁	總コロタイプ刷毎頁解説附
紙質及紙數	舶來上等紙一百丁（本文五十丁解説五十丁）
製本出來期日	明治四十四年五月十九日
特價期限	明治四十四年五月三十一日限

全一册 正價金三圓 特價金貳圓 郵送料十八錢

集録目次

第一圖	百濟朝佛像
第二圖	新羅朝金生書
第三圖	同 冠飾
第四圖	同 石扉
第五圖	同 土器
第六圖	同 土器
第七圖	高麗朝柳公權書
第八圖	同 耳鐶
第九圖	同 系鏡
第十圖	唐鏡
第十一圖	女眞鏡
第十二圖	高麗朝梵鐘
第十三圖	同 厨子（表面）
第十四圖	同 厨子（裏面）
第十五圖	同 香爐
第十六圖	同 半鐙
第十七圖	同 大花瓶
第十八圖	同 茶碗
第十九圖	同 白磁人物
第二十圖	同 大缸
第二十一圖	同 酒煮平
第二十二圖	同 石棺
第二十三圖	同 刺繡
第二十四圖	李朝姜顔筆山水
第二十五圖	同 安堅筆山水
第二十六圖	同 韓脩書
第二十七圖	李朝李上佐筆山水
第二十八圖	同 李容齋筆雲鳥
第二十九圖	同 申潛筆花鳥
第三十圖	同 李慶胤筆高士觀月
第三十一圖	同 李祐筆山水
第三十二圖	同 美人彈琴
第三十三圖	同 月潭筆山水
第三十四圖	同 申夫人筆蘆雁
第三十五圖	同 獻王后御繡山水
第三十六圖	同 李峯孝筆漁夫
第三十七圖	同 梅琛筆鶏林ノ事
第三十八圖	同 洪得龜筆漁翁
第三十九圖	同 曹世傑筆仙園棋
第四十圖	同 金埴筆蘆雁
第四十一圖	同 尹斗緒筆漁樵問答
第四十二圖	同 崔北筆山水
第四十三圖	同 金弘道筆鬪犬
第四十四圖	同 李寅文筆山水
第四十五圖	同 金原臣筆秋浴水禽
第四十六圖	同 申潤福筆婦女彈琴
第四十七圖	同 金斗樑筆山水
第四十八圖	同 眞珠螺鈿團扇
第四十九圖	同 眞珠螺鈿簞笥
第五十圖	同 鐘

發行所 朝鮮京城本町二丁目 振替口座京城百十五番 日韓書房
發行所 東京神田表神保町 振替口座東京一三五番 同文館

日韓瓦斯電氣株式會社
瓦斯コークス特約發賣（がらの上等なり）
三菱石炭專賣店
Ⓜ
明治町二丁目 村山商店 電話千五十一番

牛馬犬猫治療所
入院隨意
京城明治町三丁目 小川家畜醫院
院長 小川龜太郎（電話四二七番）

特別の御愛顧を蒙る爲正價より特に五分引

〈上〉製茶小包直接販賣
白園特製 銘茶販賣の主旨
◉弊園は確實正價にて親切なれば廣告と現品と斷じて表裏無之候
◉目方及荷造等嚴密に致し迅速發送に應じ
◉品質の優良なるは他店の及ばざる處也
◉弊園は江湖の愛茶家諸賢に遺憾なからしめん事を勤む何卒右銘表に基き御用命乞ふ

御茶銘並定價表
◉玉露（百六十匁）千羽鶴 金五圓　鶴齡 金參圓　老松 金貳圓　寒竹 壹圓五十錢　白梅 壹圓貳十錢　高砂 金九十錢
◉煎茶（百六十匁）富士 壹圓貳十錢　池の尾 金壹圓　大福 金八十錢
一堀井園 金七十錢　一正喜撰 金六十錢　一喜撰 金五十錢　一青柳 金四十錢　一川柳 金三十錢
◉濃茶（十匁）（挽上げ二割増）初昔 金四十錢　後昔 金三十錢
◉薄茶（百六十匁）（挽上げ二割増）極詰 金參圓
◉折物（百六十匁）一別儀 金貳圓　別儀 壹圓六十錢　折鷹 金九十錢　上雁 金七十錢　雁音 金六十錢
◉粉茶（百六十匁）下眞粉 壹圓二十錢　上眞粉 金七十錢　玉露粉 金七十錢　玉粉 金三十五錢

◉右の外何品にても御注文に應じ進物用に適す
◉茶銘斤數御氏名等は御注文の節明瞭に記入被下度候▲裝飾は總て御進物用として御拂込の代金
◉引換小包に限る◉振替貯金口座へ御送金の上御注文は直ちに御送付可仕候
◉前金御注文の品は無代にて御取計ひ可仕候
です◉一斤壹圓以上の品は送料不足は現品にて若し鑵代を要す
引く（但四十斤以上にて鑵代）、一斤は凡て付十錢
す（但鑵詰の節は鑵代を申受く）◉郵送費は凡て需用者御負擔の事
◉現品送附中破損防止の爲箱入と致し節は實費申受度候
（鑵代斤入十錢、半斤入七錢、四斤石鑵其他の節本紙廣告に依る旨記入乞
▲御賣は特に御相談可致候◉御注文は山城國綴喜郡宇治郷村字中長池郵便局區内 振替大阪七二九九番



御茶調進所 堀井園 堀井憙之輔

一日にして効能は現る



價 三日分 廿五錢 七日分 四十錢 十四日分 七十五錢
本舗 日本大阪 高橋盛大堂
代理店 京城本町五 木下大盛堂 同南大門三 新井藥房
到る所の藥店に販賣す

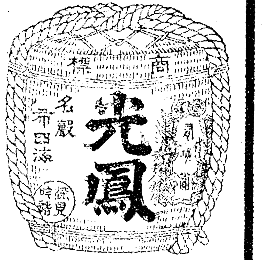
眼科
京城本町六丁目（元軍司令部通り）
金井眼科醫院
電話一五五六番
院主 前大韓醫院眼科部長 金井豐七

梅毒根治の確効ある新藥六〇六號
を左の規定に依り治療を施行す
一、治療せんとする者は先づ病毒の有無を黴菌を檢診ワッセルマン反應しに依て新藥を注射す
一、新藥注射後更に病毒有無の檢診（ワッセルマン反應）を行ひ根治したるを確認し注射を終る
一、本治療は極めて秘密に行ふを以て希望者は本人若くは書状を以て當院河野醫師に内報すること
本町四丁目（電話二四番）
贊化病院

名藥最新發見
キリンゼール

年金恩給長期立替
共盛舍内 大野

大日本家政學會編纂
新編 家庭の栞 帝國文庫 婦人文庫 近刊
朝鮮特約販賣所 南山町二丁目四十一番 共盛舍 電話二八八番



釀造元
仁川宮町三丁目
深見勝三郎
電話二四八番
電信略號フ

電話開通 三百七番
國譽足袋仁川發賣元
麻裏草履卸小賣
仁川本町三丁目
松尾商店

夏期好飲料

飲用適當 當所製氷は水道良水を使用するを以て飲して危險なく且つ長時間の保存に堪申候
室内裝飾並に冷室 所謂花氷にして草花を滿開の儘透明なる氷裡に凝結せしものにして艶麗なる美觀は夏期宴會席上缺く可らざるものに候
營業方法 見三伏の暑を忘るゝの點は電話にて御下命の節は早速配達仕候花氷は二三日以前御申込相願度御一報の節は直に參堂可成御便利相圖申候
製造並に賣捌所
西大門外アストルハオス横
京城製氷所
電話架設中に付取次 千三百八十二番
賣捌希望の方は御來談相成度候

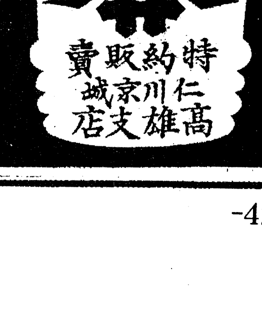
義齒術全般
京城旭町一丁目
齋藤英壽
電話一四一四番

ヘルプの眞價を知らずして腸胃病に苦しむ人なきか
▲腸胃病の特效藥として
▲現下の藥界に異彩を放つ
ヘルプは實に下の如き特長を有す
▲ヘルプは、内科の名醫柏村博士の創製成る醫界理想の腸胃藥也
▲ヘルプは、新式の錠劑なれば飲んで直に溶解す故に效能神速なり
▲ヘルプは、貴重藥の配劑なれば、用量少なくして、効能偉大なり
▲ヘルプは、糊にて固めたる丸藥の如く、腸胃を害する恐れなし
▲ヘルプは、單に下痢を止むる而已ならず平常小量（一回一錠宛）を服すれば腸機能を調へ消化を助け滋養の攝收力を旺盛ならしむ



効能
◉痢病◉腸胃加答兒◉食傷◉腹痛◉腸の瓦斯◉水あたり◉時候あたり◉吐瀉◉肺病の下痢◉冷腸の下痢等一切の下痢を止め腸胃を整ふ

實驗は事實を語る
事實の前に虚言なし
ヘルプの眞價を知らんと欲すれば乞ふ是を實驗せよ



純良消毒牛乳
京城東四軒町
岡野牧場
電話一六十九番

入院隨意
京城壽町三丁目（電話三七八番）
中島醫院
院主 醫學得業士 中島貞信

別製 鐵花味噌賣出



仁川本町三丁目 たからや 電話七三七番